

令和6年度私立学校初任者研修関東地区埼玉県研修会実施概要
 ～私立学校教員としての心構えの体得と実践的指導力の育成～

実 施：一般社団法人埼玉県私立中学高等学校協会

会 期：令和6年7月24日（水）～26日（金）

会 場：第1日：埼玉県民健康センター（埼玉県さいたま市）

第2・3日：THE MARK GRAND HOTEL（埼玉県さいたま市）

参加人員：150名

参加対象者：一般社団法人埼玉県私立中学高等学校協会に加盟する私立中学校・高等学校・中等教育学校に新たに採用された教員（含経験者）及びそれに準ずる教員（近年の採用教員を含む）

【日程細目】

第1日 7月24日（水）

〔会場：埼玉県民健康センター〕

9:00	受 付
10:00	開会あいさつ 青山学院大学系属浦和ルーテル学院小中高等学校理事長・学校長 福島宏政
10:10	講義Ⅰ 「暮らしの中の人権」 持 田 倫 武 埼玉県県民生活部人権・男女共同参画課
11:20	講義Ⅱ 「いじめ防止対策推進法に求められることについて」 横 山 大 輔 埼玉県県民生活部青少年課主査
12:30	昼 食
13:20	グループ討議A【人権問題】 研修1「人権感覚育成プログラム」 黒 須 玲 二 埼玉県教育局教育人権教育課指導主事 研修2「いじめの早期発見」 伊 藤 隆 太 埼玉県総務部学事課人権教育・生徒指導担当主幹
16:10	学事課より情報提供 アンケート及び感想記入
16:30	諸連絡

第2日 7月25日(木)

[会場: THE MARK GRAND HOTEL]

9:20	受 付
9:40	開会あいさつ 本庄東高等学校校長 小林弘斉
9:50	講義Ⅲ 「令和の日本型学校教育の実現に向けて」 羽 田 邦 弘 十文字学園女子大学教授
11:05	講義Ⅳ 「やる気を引き出す学習する空間づくり」 大 矢 純 (株)授業学研究所所長
12:35	昼 食
13:30	指導者の教科別等経験発表
14:00	グループ討論B【学習指導】
15:30	グループ討議まとめ・指導助言
16:20	諸連絡
16:30	

第3日 7月26日(金)

[会場: THE MARK GRAND HOTEL]

9:20	受 付
9:40	開会あいさつ 浦和学院高等学校 植松代次郎
9:50	講義Ⅴ 「生徒指導の現状と課題」 藤 平 敦 日本大学文理学部教授
11:10	講義Ⅵ 「生徒・保護者との望ましい関係づくりと教育相談」 大 橋 孝 史 臨床心理士・公認心理師
12:20	昼 食
13:15	グループ討論C【生徒指導】
14:45	グループ討議まとめ発表 班別代表者が発表
16:00	代表者発表
16:10	閉講式あいさつ 東京成徳大学深谷高等学校校長 石川 薫
16:30	諸連絡
16:40	

概 要

※講師、担当者の所属・職名は日程細目参照。

【研修1日目 開会あいさつ 福島 宏政 氏】

昨今の人権問題が、いじめ・不登校・SNSトラブル・LGBTなど複雑化していることを指摘し、それらへの適切な対応への助けになる研修会にして、埼玉の教育の発展に活かしたいと話した。

【研修Ⅰ（講演 持田 倫武 氏）】

人権とは、「人として幸せに生きる権利」である。令和2年度に埼玉県が実施した調査の結果を、10年前の平成22年度と比較すると、いじめ・児童虐待が増えていることが読み取れる。同和問題、ネットでの誹謗中傷、性的マイノリティの問題、など人権をめぐる問題は山積しているとの講演をいただいた。

【研修Ⅱ（講演 横山 大輔 氏）】

近年のいじめは、加害者と被害者が固定せず、時には入れ替わり、特定の子に集中しない傾向がある。また、暴力を伴わないが深刻ないじめも増えている。いじめ防止対策推進法では、「学校が実施すべきこと」が明記されているので、教員はしっかり理解しておく必要がある。

【グループ討議A 人権問題】

（研修1 黒須 玲二 氏）

自分の大切さとともに、他の人の大切さを認めることが人権感覚を磨くためには重要である。頭で理解するだけでなく実際の行動で示すことの大切さを学んだ後、グループに分かれての討議が行われた。

（研修2 伊藤 隆太 氏）

映像を見て、「いじめを受けているサイン」を発見する実習を行った。子どもの様子に注意を怠らず、SOSを見逃してはならない。生徒を支援的な立場で見るのが肝要であると強調していた。

【研修2日目 開会あいさつ 小林 弘斉 氏】

今、教育現場では様々なことがおきていて時代に即した対応が必要とされている。改善点を一人で探るのではなく、経験ある多くの人から情報を得るとよいだろう。様々な学校から多くの参加者集まったのはその意味でも好ましい。

【講義Ⅲ（羽田 邦弘 氏）】

学習指導要録では、子ども達にどのような力を身に付けることを目指しているだろうか。同じ学歴なのに仕事出来る人とそうでない人がいるのはなぜだろうか？それは、行動特性（コンピテンシー）が大きな要因となるからである。知識やスキルは見えやすいが、行動特性の基礎となる価値観・動機などは見えにくい。この見えにくい部分が大切で、21世紀型の教育に転換していかなければならないという講演をうかがった。

【講演Ⅳ（大矢 純 氏）】

AIの進化で、30年後には、今は存在しない職業に就いている人が多くなる。その時代を生きる生徒に必要な能力を伸ばす授業とは何かを探り、主体的を引き出す発問の方法を学んだ。

【グループ討議B 学習指導 教科別討論】

上記の講演を受けて、学習指導に関する日々の問題点を活発に討論した。

【研修3日目 開会あいさつ 植松 代次郎 氏】 日程説明を行った。

【講義Ⅴ（藤平 敦 氏）】

生徒指導は、「事後対応」「初期対応」「未然防止」があり、明確に分けて対処すべきである。事後対応ばかりに気を取られて未然防止を怠るべきではない事を強調され、続いて「生徒指導提要」（令和4年12月改訂）の解説を行った。

【講演Ⅵ（大橋 孝史 氏）】

生徒や保護者との望ましい関係を築くためには、共感的に話を聞くことが大切である。発達障害については、不安の強い子が増えている傾向にある。

【グループ討議C 生徒指導】

上記の講演を受けて、生徒指導に関する日々の問題点を活発に討論した。

【討議のまとめ発表】

各班の代表が討議の内容を発表した。

【閉講式・あいさつ（石川 薫 氏）】

教師としての使命感、責任感、誇りを持つことを望む。専門職としてまずは教科指導が大切なので高度な知識技術を学び、そして豊かな人間性と社会性を身につけて欲しい。もし迷い悩んだら助けを求めることをためらわないで欲しい、とのお言葉をいただき、研修会を終了した。

